

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	天王寺区
学校名	聖和小学校
学校長名	左海 克彦

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・聖和小学校では、第6学年 87名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率については、国語科・算数科・理科の全てにおいて大阪市・全国平均を上回ることができている。

全国との差においては、国語科は+5.2%、算数科は+8.0%、理科は+4.9%となっており、良好な結果となった。

平均無回答率についても、3教科共に大阪市・全国平均を下回っているため、問題に対して積極的に取り組もうとしている姿勢がうかがえる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

6つの領域の全ての項目で全国平均を上回っており、特に「資料の読み方」(+9.3%)、「話す・聞く」(+7.6%)、「敬体の言葉遣い」(+6.2%)で顕著な成果が見られた。一方で「物事の様子を表したり、説明する文を書く」の正答率が他の項目に比べてやや低め(+1.3%)で、文章の要点をとらえ、自分の言葉でまとめることに課題が見られる。

[算数]

5つの領域の全ての項目で全国平均を大きく上回っており、特に「変化と関係」(+12.2%)、「数と計算」(+8.1%)で、成果が顕著であった。一方で「測定」の正答率(+4.8%)と「データの活用」の正答率(+6.5%)は、他の領域に比べてやや低い。データを活用するために必要な正しい情報を読み取る力を養う必要がある。

[理科]

4つの領域の全ての項目で全国平均を上回っており、特に「生命」を柱とする領域(+9.2%)と、「生命」という基本的な概念を軸に、生命に関する自然の事物・現象を共通性と多様性の視点でとらえ、探求する力が身についてきている。しかし、「粒子」を柱とする領域においては差が小さく(+0.9%)、探求的な学習を通じて思考力・判断力・表現力を育てる必要がある。

質問調査より

「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して肯定的な回答が93.3%と、全国平均より高く(+6.4%)、児童が自分の良さを認識できており、自己肯定感が高い児童が多い。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に対しは、肯定的な回答が100%で、社会性や利他性が育まれている。

しかし、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対しては肯定的な回答が92.2%ではあるが、全国平均よりはやや低く(-2.3%)、児童が「認められている」と感じる機会の充実が課題である。

今後の取組(アクションプラン)

国語科では、読解力向上のために、読書活動の充実(読書週間、読書感想文)や、読解問題の多様化(説明文・物語文・資料文など)、音読や要約活動の導入に力を入れる。

算数科においては、情報の扱い方及び、資料の読み取りや情報整理の力を育てるためにグラフや表を使った読み取り活動やICTを活用した情報収集・整理の授業の実践を進める。

理科では、物質の性質や変化を粒子として捉える視点を育てるために、複数の班で異なる実験を行い、結果を共有することで多角的に考える力と、より妥当な結論を導く力を育くむ。

児童が教師との関係性においては、「自分は認められている」と感じられる環境づくりが重要であり、児童のよさを見つける活動を通して児童同士の承認の文化を育てる必要がある。

【 全体の概要 】

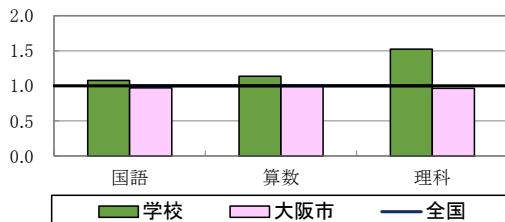
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	72	66	87
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

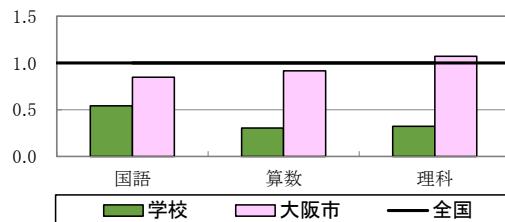
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	1.8	1.1	0.9
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



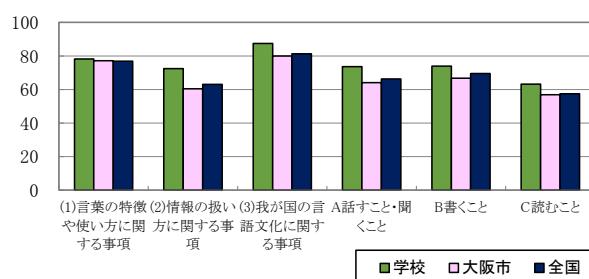
【 国語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	78.2	77.1	76.9
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	72.4	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	87.4	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	73.6	64.0	66.3
B 書くこと	3	73.9	66.7	69.5
C 読むこと	4	63.2	56.9	57.5

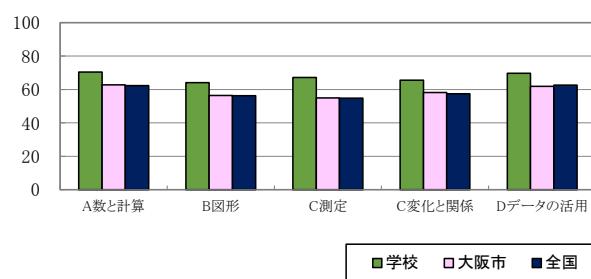
【 算数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	70.4	62.7	62.3
B 図形	4	64.1	56.4	56.2
C 測定	2	67.2	54.9	54.8
C 変化と関係	3	65.5	58.2	57.5
D データの活用	5	69.7	61.9	62.6

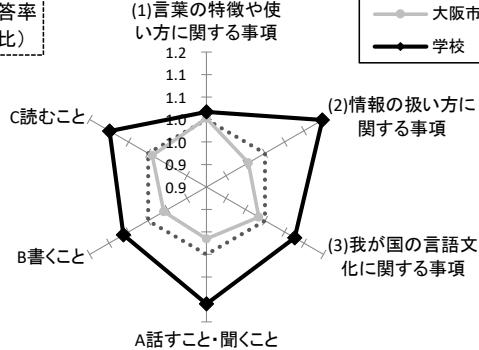
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



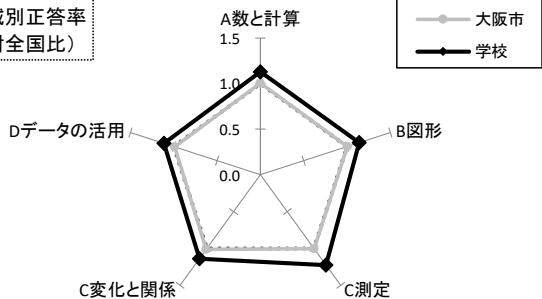
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

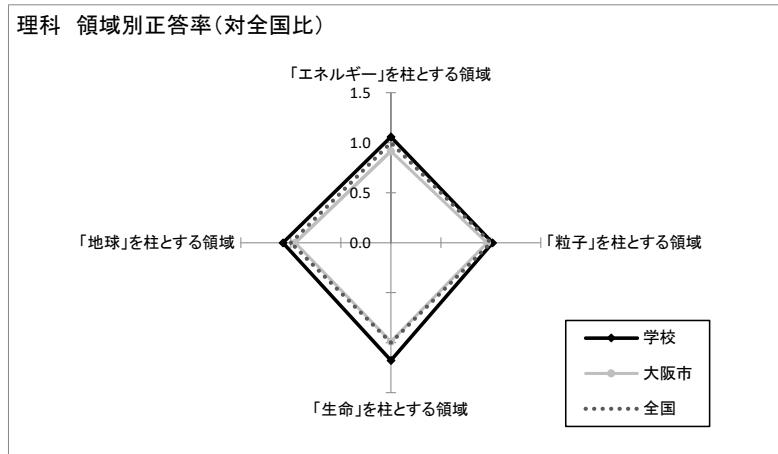
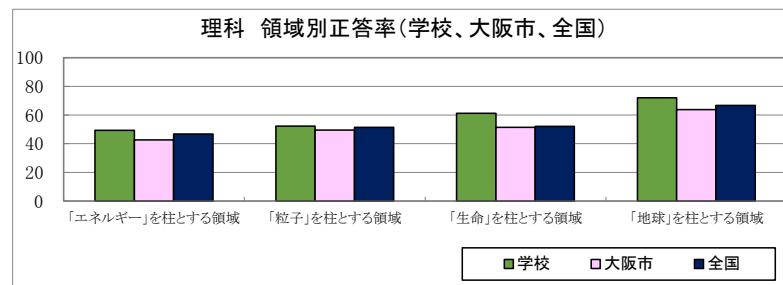


算数
領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分 「エネルギー」を 柱とする領域	4	49.4	42.7	46.7
	6	52.3	49.5	51.4
B 区 分 「粒子」を 柱とする領域	4	61.2	51.4	52.0
	6	72.0	63.8	66.7



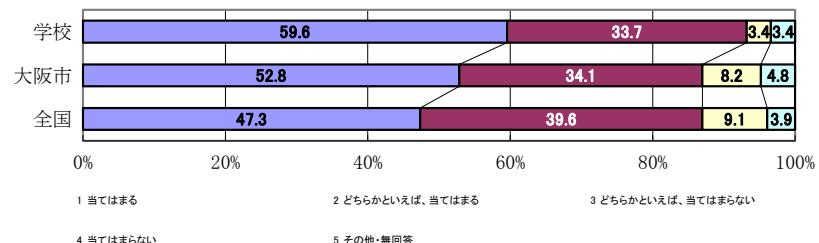
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

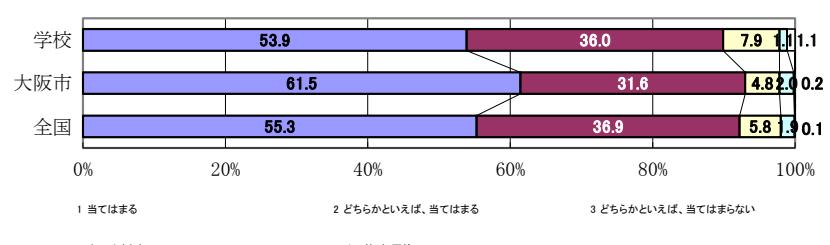
5

自分には、よいところがあると思いますか



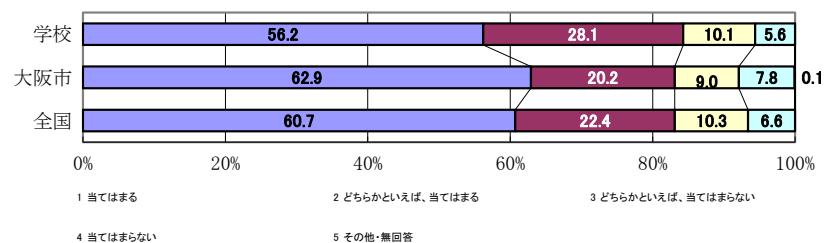
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



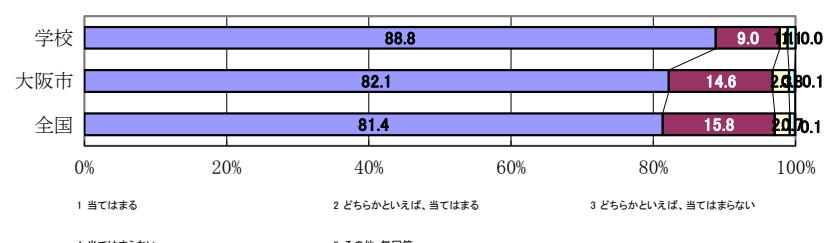
7

将来の夢や目標を持っていますか



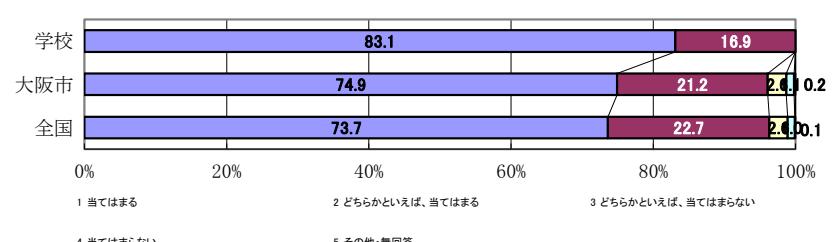
9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



学校質問より

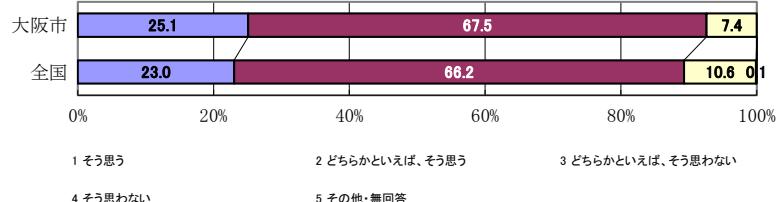
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

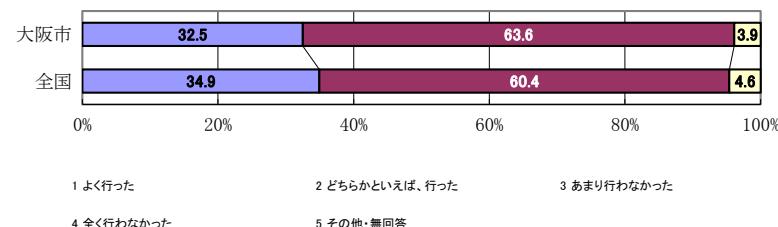
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



31

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

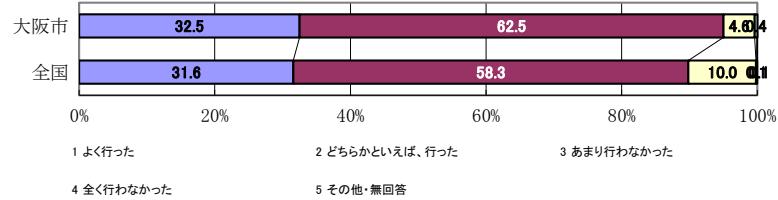
学校 「よく行った」を選択



32

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

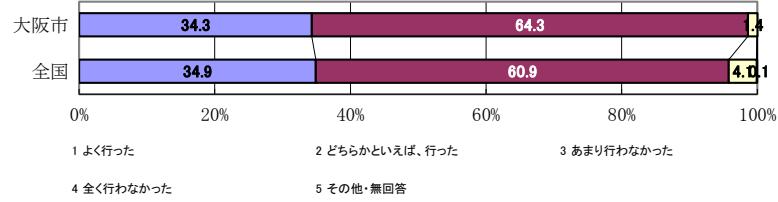
学校 「よく行った」を選択



43

調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



60

調査対象学年の児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「月1回以上」を選択

